

# 地域支援ネット架け橋

ニュースレター 9月号

召された聖徒たちへ

2018年9月9日発行 No.24

ローマにいるすべての、神に愛されている人々、召された聖徒たちへ。  
私たちの父なる神と主イエス・キリストから恵みと平安があなたがたの上にありますように。

ローマ人への手紙1章7節

## ◆祈りによって築かれよう (文責：中澤 竜生)



南三陸町のいま①



南三陸町のいま②

### ①今日の活動にて

今日私は、復興住宅地における活動や、新居に移られた方々を訪問している際、仮設入居されていた時とは大きく異なる点を感じます。それは、ゆっくりとお話しを聞いてくださる姿に不透明感が溢れ出る様子がないことです。また帰り際には私からの「祈ってもいいですか?」という問い掛けに、笑顔で「はい」と答えてくださいます。そこに定着とゆとりを感じます。

宣証の働きは、相手の方の「呼吸」を感じながら応答と伝達を繰り返します。「伝えたい」のは山々ですが、相手が心に受け入れて理解するまでには時間がかかります。そのため、家族と向き合うように時間をかけつつ勇気と希望そして愛の「ことば」を提供します。

「今私は、あなたがたを神とその恵みのみことばにゆだねます。みことばは、あなたがたを成長させ、聖なるものとされたすべての人々とともに、あなたがたに御国を受け継がせることができるのです。」(使徒の働き20章32節)

盆が終わり、志津川を訪問した際のこと、社会福祉協議会が運営する「結の里」より一人の男性が出てこられ、私に声をかけてくださいました。

「なんと！ここでお目にかかれるとは。今私は中央地区に住んでおります。来てくださったことはありますか？是非来てください。中澤さんの顔を見て勇気が出ました。」

この方は南方イオン跡地仮設に住んでおられ、住民の窓口としてご尽力されておりました。このようにして、今まで関わった方との交流も多くあります。今後も時間をかけて、祈りつつ「呼吸を感じながら」会話を交わしたいと願っています。

## ②祈る人たち

最近私は「祈りによらなければ」と強く感じています。特に8月中旬は「祈ることの重要性」を伝えたいと思っていました。そこで、「周囲の方から祈りの質問があればいいなあ」と思い、祈り願いました。すると、私が住んでいる場所の近くにある復興住宅に住む方から「どのように祈ればいいでしょう？」と聞かれたのです。それは一人だけでなく、そこに集う方々を代表しての思いでした。私たちはそれを聞いて驚き、感謝するのです。

祈った人は自ら大切なことを発見すると私は確信しています。そして、私は自分が通い、交流をもっている方々が祈りを大切にしてくださり、そこから「祈りの家」が誕生することを望まずにはられません。

「わたしの聖なる山に来させて、わたしの祈りの家で彼らを楽しませる。彼らの全焼のささげ物やいけにえは、わたしの祭壇の上で受け入れられる。なぜならわたしの家は、あらゆる民の祈りの家と呼ばれるからだ。」（イザヤ書56章7節）

御国は、祈りによって築き上げられます。祈りは御言葉を実践させます。また、謙虚と敬虔そして忍耐も備わります。そして、祈りは平和を構築します。私たちは地域のことを覚え、真剣に祈る者になりたいと願うのです。

祈る時の主権は神様にあります。私は御言葉に耳を傾ける時間を多く取ることが大切であると支援活動の現場を通して学びました。

「彼は私にこう答えた。『これは、ゼルバベルへの主のことばだ。“権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって”と万軍の主は言われる。』」（ゼカリヤ書4章6節）



志津川にある  
天王山行政区復興住宅地

## ③祈りによって一つ

祈りの成果は、一つとなれることです。一つになるとはどういうことを意味するのでしょうか。

祈り続ける中で、第三者を否定し続けることはありえないものです。むしろ私たちの祈る対象者は聖書の神ですから、愛することができるように啓示を与えてくれます。

祈りによって実感すること、祈ることによって、天上の有様を地上でも行われるように（マタイの福音書6章10節）と示されます。また、私たちは祈ることによって「家族」であることが示されます。ですから、私たちは訪問し祈りを提供するのは「家族」だと思っからです。特に祈らせていただく、そのことで一つとなったことが実感できるのです。

この世の中では争いが絶えません。その争いで不本意にも巻き込まれる方がおられます。このような事態で、私はイエス様に祈りつつ、イエス様の教えを優先します。その結果、争いのあるところには正しい祈りによって平和に取り組めるようにと家族付き合いを深めています。

地域と関わるクリスチャンは、イエス様にあって一つとなることができるでしょう。そこには優しさと配慮そして平和があります。「宣証」による実践は、呼吸を感じ取れる一人ひとりとの関係であって、常に深い「祈り」によって取り組まれています。

正しく祈る姿勢を表すことよって、祈ることを勧め、勧められた人は魂の成長がなされます。魂の成長とは、聖書の良い教えを実践できる人となることです。まさに百人隊長のような人（使徒10章22節）となります。そのような方は更に正しく祈ることができるようになるでしょう。私は現場にあって正しく祈る群れを、聖霊にあって祈りのうちに進めている最中です。

「私たちは、このキリストによって、両者ともに一つの御霊において、父のみもとに近づくことができるのです。」（エペソ人への手紙2章18節）

「その奥義とは、福音により、キリスト・イエスにあって、異邦人もまた共同の相続者となり、ともに一つのからだに連なり、ともに約束にあずかる者となるということです。」（エペソ人への手紙3章6節）

## ◆新しい地でも（文責：中澤 義道）

私はこれまで震災の備忘録を書いてきましたが、今回は今実践をしている山形での働きについて皆さんと分かち合いできればと思います。

私は去年の9月に将棋の町で知られる山形県天童市に引っ越してきました。9月30日には初めての娘が生まれて家族3人での天童での生活が始まりました。

なぜ私が天童に来たかというと、第一に聖書を勉強するためです。また聖書を実践することがどういうことかをもっと具体的に学ぶためでもあります。

そして、ここでは教会に併設されている幼稚園で補助職員としての仕事をしながら、教会では専任奉仕者としての役割を担っています。家は敷地内にある牧師館を仮住まいとしています。

午前中は幼稚園で勤務、そして午後は聖書を勉強したり、教会で奉仕の時を持ったりしています。勉強する環境として非常に恵まれた所ですから、神様に感謝をせずにはられません。ここではただ勉強のみの生活をしないことを念頭に置いています。つまり、私が南三陸町で経験してきた「仕えること」をこの天童聖書バプテスト教会で実践していくことが重要だと考えているからです。聖書を土台として人に仕えるとは何か、そのことが私の課題になっていて毎日主の前に祈りながらどのようにこの地で振る舞うべきかを考えています。

ここに来てから教会の兄弟姉妹にこのように言われたことがあります。

「中澤さんがこの天童教会に来てくれてほんとに良かった！活気も出てきて、若いアイデアも盛り込まれるようになった。そして、何よりも教会を楽しいと思える子どもたちが増えているということは素晴らしいよ。」

この言葉を聞いてとても感謝しました。それと同時に、これまで神さまが確かに私たちの家族に語ってくださり、導きを与えてくださっていたことを覚えました。

私は、この教会に来てから神の家族の麗しさをたくさん見る事ができました。それは私の妻がお産を終えたことをすぐ教会の姉妹に知らせた時でした。姉妹は涙を流して「本当に良かった。ちゃんと生まれて来てくれて本当に良かった」と号泣しながら喜んでくださいました。山形の寒さで生活に困ったことがあれば暖をとるために厚い敷布団をくださいました。こんな助け合う姿を見たときに改めて教会は素晴らしいわざに溢れた場所であると実感するとともに、大切にしていきたいと思うのです。

そしてさらに私はこの場所で大切にしたい思いがあります。それはこの教会で次世代を育みたいという思いです。現在、若い働き人が少なく教会全体でも次世代についてのビジョンが語られています。若者がいないということは、来たる時にこの教会を担っていく人材がないという状況が予想されます。ですから私は祈り心を持ってこの教会に人が与えられるために何をすべきかを考えています。



妻と娘と私

私はこの次世代についての働きが、天童ですべき実践であり、課題だと思っています。南三陸町ではどのように人と関わりを持ったか、どのように寄り添って良い関係を膨らませていたか、そういうことを今一度思い出しながら天童教会に仕え、従う者でありたいです。ですが何より、思い巡らして積極的に行動していても常に必要とされるのは祈りです。祈りによって神は人知を越えたわざを私たちの内から、あるいは周囲を通して必ず示してくださる方です。

「それは、彼らがあらゆる点で、私たちの救い主である神の教えを飾るようになるためです。」（テトスへの手紙2章10節b）

## ◆活動報告とお知らせ



●NPO法人シャローム「琴と太鼓のコンサート」(6月20～22日)  
年に一度、北海道より来仙される「シャローム」さんは今回で7回目となります。  
今年も計5回のイベントは大好評でした。  
特別参加として救世軍の栗飯原先生がお手伝いくださり、  
ラッパを披露してくださいました。  
来年も来仙予定です。



「私は毎日6時間は祈ります」  
と語るトーマスジャンフィ宣教師

### ●祈りが必要です(7月3～4日)

会場：塩釜聖書バプテスト教会、気仙沼第一聖書バプテスト教会  
芦屋福音教会牧師 沖胡一郎氏によって講演が実現しました。  
参加者は決して多くはありませんでしたが、  
ひとりを導くために来られたというそのメッセージには力がありました。  
東北にとって今最も大切なメッセージが語られた時間でした。  
※下記のURLをパソコンなどに打ち込んでいただければ  
映像をご覧いただけます。

<https://youtu.be/Nss1gkEcNXQ>

<https://youtu.be/05tTpEi1V50>

### ●南三陸町ハートニット活動

東北ヘルプより紹介を受けたハートニット事業は今年で終了となります。  
ですが、アミマーさんはプロとして新しい事業に取り組みます。  
その一つとして、マーガレットハウエル(イギリスのアパレルブランド)で  
編み物が販売されます。  
志津川の宝となりました。



### ●中澤ファミリーコンサート練習が始まりました

9月24日(月)にイエス福音教団 登米教会にて第5回目が催されます。  
家族が集まるのが毎年難しい中、  
救世軍の栗飯原先生ご夫妻も参加して下さり、今年も実現します。  
更に今年は孫が二人参加します。



### ●今年も祭り支援を行いました(7月28日)

落合市宮住宅(復興団地)にて、住民の方々に祭りを決行しました。  
入居されている方は仙台市、石巻市、南三陸町等です。  
私たちは脇役でしたが、今回で2回目となります。



## ●南三陸町志津川の旭ヶ丘行政区祭り支援

### 子ども会への花火支援7回目

行政区の祭りは、地域を励ますところから始まります。  
クリスチャンが主導のもと続けてこられました、  
今では自治会協力として継続中です。  
特に子ども会には花火を提供しています。

## ●宮城三陸3.11東日本大震災追悼記念会準備委員会と

### 他県での応援コンサート依頼

2012年から始まったセレモニー。  
始まりは南三陸町から、今では気仙沼市、登米市、石巻市に及ぶ  
クリスチャンネットワーク活動です。  
今年は女川町と東松島市で開催します。  
クリスチャンが一つとなる活動の一環ですが、  
この働きを知っていただきたいと願い、  
萩原ゆたかさんと高奈美香さんにも協力を依頼しております。



## ●交流会

志津川の中心にある「結の里」。  
そこに隣接する「天王山中央行政区復興集合住宅」にて  
昼食込みの交流会を催しました。  
仮設イオン跡地におられた方が多く、一年ぶりの再会に話が湧きました。



## ●インド舞踊

東北ヘルプの依頼で落合市営住宅でインド舞踊を開催します。  
クリスチャンである櫻井さんはインド舞踊の指導者でもあります。

## ◆架け橋スタッフからお祈りのお願い

この度は地域支援ネット架け橋ニュースレター24号をお読みくださり、誠にありがとうございます。  
地域支援ネット架け橋の活動の主体である「宣証」を守るために、年間約300万円の活動費を必要としております。  
皆様にはこの活動費が満たされること、地域支援ネット架け橋の支援の輪がより広がること、  
現場において支援活動を継続する中澤竜生氏、佳子氏のためにお祈りくださいますようお願い申し上げます。  
※活動の費用内訳については会計ページをぜひご覧ください。

# 尊いご支援に心から感謝いたします。

前回繰越金：201,750円

献金収入合計：658,000円（2018年6月1日～8月31日）

献金を捧げてくださった団体様及び個人様（以下敬称略、順不同）

基督聖協団青梅教会、船堀グレースチャペル、松本望美、金原雅子、伊藤歩、基督聖協団八王子教会、  
基督聖協団上田教会、佐藤由紀夫、基督聖協団西入間教会、匿名希望者、高奈美香、  
日本イエス・キリスト教団京都聖徒教会、新潟グレースネットチャペル、清瀬グレースチャペル、  
長縄俊一郎、基督聖協団若潮教会、萱島キリスト教会、魚住キリスト教会、基督聖協団中川教会、  
基督聖協団信徒会、基督聖協団美深教会、基督聖協団相模原教会、NPO法人シャローム、南谷正憲、  
南谷佳菜子、大阪朝祷会有志、被災地支援ネット東北ヘルプ、保守バプテストいこいの汀教会、  
三島克己、進藤龍也、淀橋教会（311祈禱会）、基督聖協団仙台宣教センター

献金支出合計：753,680円（2018年6月1日～8月31日）

【内訳】車両交通費：210,000円、事務費／通信費：39,200円、啓蒙活動費：130,000円、  
ネットワークサポート費：12,000円、慶弔費：10,000円、追悼会費：6,000円、茶話会：34,000円、  
地域支援費：20,500円、困りごと支援費：15,000円、雑費：26,980円、架け橋スタッフ費：250,000円  
次回繰越費：106,070円

## － ご協力のお願い －

銀行名：七十七銀行 宮城町支店

口座番号：普通 5497795

名義：キリスト聖協団西仙台教会かけはし会計 中澤佳子

ゆうちょ銀行口座名義：地域支援ネット架け橋(チイキシエンネットカケハシ)

店名：二二九店(ニニキュウ) (229)

口座の記号・番号：02290-3-141031

当座：0141031

PayPal(ペイパル)を利用してクレジットカードの支払いができます。

\*これにより海外より応援していただくことも可能です。

PayPal検索用アドレス：[yoshiko.n36@gmail.com](mailto:yoshiko.n36@gmail.com)

事務局：地域支援ネット架け橋

所在：宮城県仙台市青葉区愛子東3-14-22

発行元：山形県天童市三日町二丁目6-14

電話：090-1069-3925

活動スタッフ：中澤竜生、中澤佳子

事務スタッフ：中澤義道、中澤愛美

◆お問い合わせはこちらのメールアドレスへ → [kakehashi.net@gmail.com](mailto:kakehashi.net@gmail.com)

◆地域支援ネット架け橋の活動内容はこちらのHPから → <https://www.kakehashi2013.com>